

修明高等学校鮫川校 存続の危機 3

鮫川校に 寄せる思い

Part 2 在校生の主張

「広報さめがわ」11月号では、鮫川校と関わりのある3人に鮫川校に寄せる思いを話していただきました。今月号では、実際に鮫川校に通っている生徒の思いを紹介します。11月3日に行われた村少年主張大会で修明高校鮫川校の生田目凌雅さんが「生徒会長になって思うこと」と題して鮫川校への思いを発表しました。
※原文のまま掲載



①特色ある学校づくりの一環として行っている大豆栽培。昔ながらの方法で、棒で叩いて大豆を脱粒する生徒たち／②鮫川校の顔として活躍する軟式野球部。部員が少ないながらも日々練習に励む／③歴代野球部が獲得したトロフィーや盾の数々

思い出ではなく、未来の形ある物としても残していきたいのです。まだまとまっていりませんが、存続のため案を生徒全員でいろいろと出し合い、実行していきます。そして私たちの行動が鮫川校の存続につながるものと信じています。

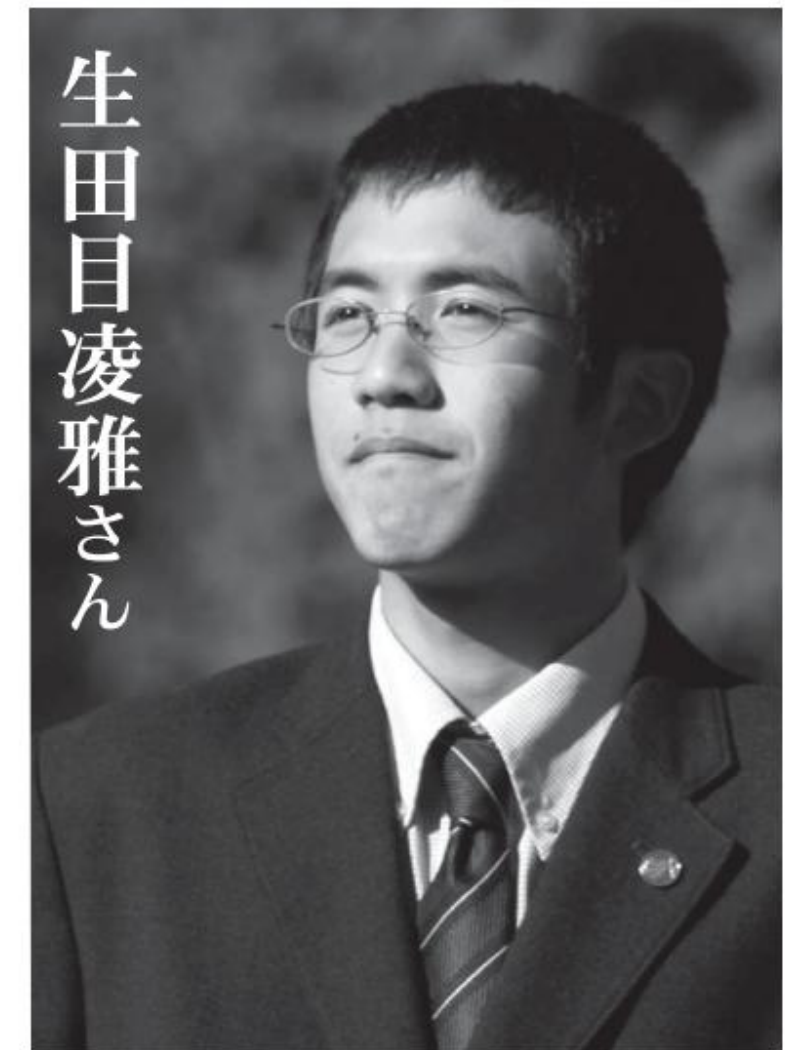
最後になりますが、私は今の鮫川校も大事に思っています。今年は予算の関係で行事がいくつか減ってしまいました。しかし私は予

私 は鮫川校に入学して、学んだことがたくさんあります。鮫川校は人数こそ少ないものの、学校生活では生徒一人ひとりが毎日一所懸命に勉強や部活動に励んでいます。学習面では各教科の基礎をしっかりと学び、教科担当の先生方も生徒と一対一で丁寧に勉強を教えてくださいました。この指導方法は鮫川校のよくな小さな学校だからこそできることだと私は思っています。部活動では野球部が東北大会出場という優秀な成績を残しました。そして、今年は東北大会で初勝利をあげることができた年でもあります。しかし、創部二十九周年を迎える野球部も現在の部員数は少なく、五人しか在籍していません。そのため、先日の新人戦では他の部から人を借りて何とか大会に出場しました。鮫川校は、どの部活動にも力を入れて取り組んでいますが、その中でも力を入れているのが野球部なのです。今では野球部が鮫川校の顔として、地域の方々や他の高校にも知られています。

さて、このように野球部は人数不足で存続の危機にありますが、野球部と同様に存続の危機にあるのが学校そのものです。私が生徒会長に立候補した理由も、学校が存続の危機にあるからです。私は鮫川校に入学し、まだ半年しかたっていない期間に学校の良さをたくさん知ることができました。

そして数多くの思い出もできました。この鮫川校には、在籍中の生徒、さらには卒業していった先輩方の思い出がたくさん詰まっていると思います。私が高校で過ごした時間はわずか半年です。しかし、卒業していった先輩方は私が過ごした時間の何倍もの時間を過ごされました。忘れられない思い出、かけがえのない思い出

出もたくさんあると思います。私はそのような思い出が詰まった学校を守りたいのです。人数が少ないという理由だけで大切な場所を失いたくないのです。私は学校を皆さんの記憶でもなく思い出でもなく形として残していきたいのです。誰かの思い出に残ることよりもよいことだと思えます。しかし私は、学校を誰かの



なまため・りょうが ● 県立修明高等学校鮫川校1年。今年9月に行われた生徒会役員の改選に伴い生徒会長に就任。西山字辺栗在住。

学校を未来の形あるものとして残していきたいです。そのために行動していきます。